

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動報告書

教育・研究活動名	安心して暮らせる環境づくり (1)非常時における社会的弱者への支援(外国人居住者、子ども、高齢者、持病がある人など) (2)尼崎の大気環境を改善し、より暮らしやすいまちづくり		
申請大学・高校等名	大学・高校等名	兵庫県立尼崎小田高等学校	
	活動グループ名	国際探求「members of a society」	参加学生等人数 30人
指導責任者名及び連絡先	学部・学科等名称	国際探求学科	
	責任者氏名	二森 正人	連絡先電話番号
	E-mail		
協働する市民活動団体及び代表者名	団体名	尼崎市国際交流協会	
	代表者氏名	理事 古川剛	連絡先電話番号
	E-mail		
教育・研究活動目標	地域住民が安心して暮らせるまちづくりを目標に、非常時における社会的弱者への支援が行き届くように、啓発および交流を行っていく。また、日常においても、持病がある人を含めて、誰でも安心して暮らすことができる環境づくりを考える。 (1)自然災害時、あるいは現在のような感染症非常事態時に、外国人居住者(大人も子どもも)や、持病のある人に適切な情報および支援が届くよう、言語の壁を乗り越えた共助の取組を！ (2)工業都市 尼崎市の大気環境を良くし、喘息などの気管系に病気を抱える人に限らず、誰にとっても暮らしやすいまちづくりを考える。		
活動内容及び実績、評価	・「災害時の多言語対応」班は、夏休みに、人と防災未来センターへ行ったり小田地区の防災イベントでワークショップをしたりするなどして探究活動を深めた。尼崎市国際交流協会の協力を得て、外国人の困っている状況を把握した。その中で、直接外国人の方から話を聞くことで、やさしい日本語で書かれていることがとても助かることや、普段から日本人と交流する機会がなく、困った時に頼れる人がいないことがわかった。その方たちの為にわかりやすいパンフレットを作りたいと思い、その成果を複数の発表会で発表し、多くの助言を得ることができた。 ・「尼崎の公害問題」班は、NPO 法人あまがさき環境オープンカレッジの方のワークショップを受けたりイベントに参加したりすることで理解を深め、環境モデル都市である尼崎の環境への取組と、啓発活動について学んだ。 ・「脱炭素化社会」班は、化石燃料車と電気自動車と比較し、地域の自動車販売会社にアンケート調査を行うなどして現状を把握し、住民の健康問題を解決することにつながる脱炭素化社会の在り方について発表した。 12月20日(日) 探究活動の成果発表として、甲南大学主催のリサーチフェスタに参加し、発表した。 2月6日(土) 小田高リサーチ生徒研究発表会で発表し、多方面から助言を得た。 2月7日(日) 探究活動の成果発表として、神戸市外国語大学の学生に向けて発表し、質疑応答を行った。 2月11日(火)～26日(金) 探究活動の成果発表として、国際問題を考える日に動画を投稿し、質問などを受けた。 2月 2日(火)5日(金)14日(日) 大気環境をテーマとする論題についての英語ディベート交流及びコンテストに参加した。 3月31日(水) あまがさき環境オープンカレッジの方に活動報告を行う。		